**THE CLARINET TRIO ANTHOLOGY**

**クラリネット・トリオ・アンソロジー**

ダニエル・オッテンザマー（ウィーン・フィル首席クラリネット奏者）、シュテファン・コンツ（ベルリン・フィル チェロ奏者）、クリストフ・トラクスラー（ピアノ）という幼なじみのオーストリア人アーティスト３人が、壮大で画期的なプロジェクトに取り組む――それが、あらゆる時代に書かれたクラリネット、チェロ、ピアノのための作品を網羅的に取り上げる「クラリネット・トリオ・アンソロジー」だ。

このクラリネット、チェロ、ピアノという楽器編成は多くの名作曲家が取り上げてきた歴史があり、ベートーヴェン、ブラームスに始まり、ブルッフ、フォーレ、グリンカ、ツェムリンスキー、ロータらの作品の中にはこの編成による隠れていた宝物のような曲も。

今回３人が集めたコレクションの中には、ツェムリンスキーの作品に触発され、彼の弟子で義兄弟でもあったシェーンベルクが残した16小節のフラグメントもあり、それが世界初録音された。

この意欲作「クラリネット・トリオ・アンソロジー」は７枚組のCDとして録音され、2022年６月にデッカからリリース。

３人はこの収録曲の中から、ウィーン古典派、ドイツ・ロマン派、フランス印象派、20世紀の作品、現代の極めて興味深い作品まで、選りすぐりの作品を携えて世界各地でツアーを展開している。

**DANIEL OTTENSAMER, clarinet**

**ダニエル・オッテンザマー（クラリネット）**

ニールセン国際コンクールなどで多くの受賞を経て、2009年からウィーン・フィルの首席奏者。ソリストとして、ロリン・マゼール、グスターボ・ドゥダメル、アンドリス・ネルソンス、アダム・フィッシャーらの指揮のもと、ウィーン・フィル、カメラータ・ザルツブルク、N響などと共演。室内楽でもダニエル・バレンボイム、ルノー・カプソン、ミッシャ・マイスキー、ハーゲン・クァルテット、トーマス・ハンプソンらと共演を重ねている。アンサンブル“フィルハーモニクス”の創設メンバーであり、2019年からは“ウィーン・リング・アンサンブル”でも活動している。ソロ演奏はソニー・クラシカル、“フィルハーモニクス”ではドイツ・グラモフォンから多くのCDをリリース。2023年には、アダム・フィッシャー指揮／ウィーン・フィルとの共演によるニールセンのクラリネット協奏曲が発売予定。

**STEPHAN KONCZ, cello**

**シュテファン・コンツ（チェロ）**

ウィーン・フィルに在籍した後、2010年からベルリン・フィルに所属。ソリスト、室内楽奏者、作・編曲家、指揮者として活躍。室内楽では、レオニダス・カヴァコス、リサ・バティアシュヴィリ、ジャニーヌ・ヤンセン、アントワン・タメスティ、ニルス・メンケマイヤー、ゴーティエ・カプソン、ジェラルド・フィンリー、トーマス・ハンプソン、アンナ・プロハスカ、ルドルフ・ブッフビンダー、エマニュエル・パユらと共演。ソリストとしては、ラインハルト・ゲーベル指揮／ドイツ放送フィルとロンベルク、ライヒャ、ヴォジーシェクの協奏曲をソニー・クラシカルに録音した。アンサンブル“フィルハーモニクス”、“ベルリン・フィル12人のチェリストたち”、“Made in Berlin”メンバー。 作・編曲作品の多くが主要オーケストラ、著名アーティストに演奏されている。

**CHRISTOPH TRAXLER, piano**

**クリストフ・トラクスラー（ピアノ）**

ソリスト、室内楽奏者、指導者として活躍し、各国の主要ホールで演奏。多様な演奏スタイルと情熱的な演奏に定評がある。シュテファン・ヴラダー、マイケル・バレンボイム、トーマス・ハンプソンなどど共演。アンサンブル“フィルハーモニクス”のメンバーで、ウィーン・フィルの演奏にも定期的に参加している。2022年から、ウィーン国立音楽大学教授。